

1 単元名 「あらすじカード」を作ろう『はりねずみと金貨』

2 単元の目標

登場人物の行動や気持ち、起こった出来事などについて、叙述を基に捉えることができる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元における重要指導事項は、学習指導要領における〔思考力、判断力、表現力等〕のC「読むこと」(1)イ「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。」である。また、〔知識及び技能〕の(2)イ「比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方などを理解していること」の指導事項も大切に、「時」、「場所」、「人物」、「出来事」を観点にしながら必要な語句を書き留め、あらすじをまとめさせていく。

本単元では、あらすじをまとめて「あらすじカード」を作るという言語活動を設定している。そのためには、人物の行動や会話の中から重要な語や文を見付け、文や文章の構成を意識しながらまとめる力が必要になる。単元の導入時には「あらすじカード」のモデル文を掲示し、児童が学習のイメージを持つことができるようにする。

本教材は、金貨を拾ったはりねずみが冬ごもりに必要なものを買おうとするが、必要なものを森の生き物たちから譲ってもらい、結局金貨をもとあった場所に置いて帰るという話である。拾った金貨を置いて帰るという冒頭と結末の変化のおもしろさに加え、展開部は会話を中心にやり取りが繰り返されており、登場人物の気持ちや出来事について、叙述を基に捉えていくのに適した教材であると考えられる。

(2) 児童観

1学期実施「学習に関するアンケート」質問項目	肯定的に答えた児童の割合
本や文章を読むことは好きですか。	65%
本や文章を読んで書かれていることが分かりますか。	75%
物語を読んで、登場人物の気持ちを考えることができますか。	95%
友達に「分からないところを教えて」と言えますか。	75%

男子〇名、女子〇名の学級である。実態調査の結果からは、登場人物の気持ちを考える活動について肯定的な思いをもっている児童が95%と多いことが分かる。しかし、気持ちを考える活動と比較すると、本や文章を読むことに対して肯定的に捉えている児童は65%であり、差があることが分かる。このことから、より児童が意欲的に学習に取り組むことができるような学習計画や指導過程の工夫が必要である。

また、4月の「すいせんのラッパ」では、場面ごとに登場する人物の特徴や様子が分かる言葉

や文に着目して読むことを経験している。登場人物の気持ちを想像する活動については意欲的に取り組んだが、根拠を明確にして想像することができる児童は多くはない。「時」、「場所」、「人物」、「出来事」を正しく捉え、登場人物の気持ちや気持ちの変化をより具体的に想像するための手立てが必要だと考える。また、読字に困難さを持つ児童が〇名在籍しており、さらに実態に応じた支援をしていく必要がある。

### (3) 指導観

本単元の指導にあたっては、「時」、「場所」、「人物」、「出来事」を正しく捉え、登場人物の気持ちや気持ちの変化をより具体的に想像するために、以下のような手立てを講ずる。

#### ①観点の明確な提示

「時」、「場所」、「人物」、「出来事」を正しく捉えさせるために、単元を通して常に児童が意識できるよう、4つの観点を短冊にして提示する。導入時に「あらすじカード」のモデル文を提示する際には、あらすじの中に観点が含まれていることを確認し、4つの観点を正しく捉えることが「あらすじカード」の作成に繋がることを意識させたい。モデル文は常時掲示とする。児童には、文章の中から4つの観点を探させ、サイドラインを引かせる活動を意識的に設定していく。

#### ②気持ちを想像するためのヒントになる文章の提示

より課題を焦点化させるために、はりねずみの行動や気持ちが表れている文章を抜き出し、色付きの短冊にして提示する。その際、教師主導にならないように、児童との対話を通して抜き出すように留意する。

## 4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き溜め方などを理解している。	・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えている。	・これまでの学習や読書経験を振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しを持って、進んで登場人物の行動や気持ち、起こった出来事などについて、叙述を基に捉えようとしている。

## 5 単元の指導と評価計画（本時5／10）…別紙「単元の指導と評価計画」

### 6 本時の指導について

#### (1) 本時の目標

第四・五場面を読み、人物や出来事を正しく捉え、登場人物の気持ちを想像することができる。

#### (2) 指導に当たって

##### ①校内研究の視点

【視点1：単元全体の見通しを持った授業づくり】…別紙「学習計画表教師用」

【視点2：授業の視覚化・共有化】

手立て① 気持ちを想像するためのヒントになる文章を拡大して提示する。

手立て② 話し合いの際に「同じ・違う」などの聞く観点を明確に示す。

(3) 配慮を要する児童（A児）の実態と手立てについて

国語の学習では、教師の発問を一度で理解することが難しく、個別の声掛けが必要である。語彙が豊富ではないため、読んだ文章からどのようなことが起きているのか想像することが難しい。学習内容の難化に伴い、自力で考えることが難しい場合は教師との対話を行い、挿絵を手掛かりにしたり、ヒントになる表現を与えたりしながらはりねずみの気持ちを捉えさせる。また、机間指導の際に個別に声を掛け、自分の考えを持つことができるようにする。

A児のために、以下のような手立てを講ずる。

	対象児の実態	視点の手立て
視覚化	情報量が多いと混乱してしまうときがある。	・出来事や時系列を、文章だけでなく挿絵を小さくした「ミニ挿絵」を手がかりに捉えさせる。
共有化	個別の声掛けや教師との対話で自分の考えを表現できる場合が多い。	・個別の声掛けと、教師との対話を行う。 ・少人数での対話の際に、自分の考えや「分からなかった」という意見を伝え、友達の意見から納得できるものを選択させる。

(4) 評価の観点

	本時の具体的評価規準	十分満足できる児童の姿	満足できる児童の姿	努力を要する児童への手立て
思考・判断・表現力	第四場面・五場面の人物や出来事を正しく捉え、登場人物の気持ちを具体的に想像する。	登場人物の行動を正しく捉え、はりねずみの気持ちを具体的に想像し、進んで友達に伝えようとしている。	登場人物の行動を正しく捉え、はりねずみの気持ちを具体的に想像することができる。	・個別に教師と対話する。 ・友達の考えを参考にするよう助言する。

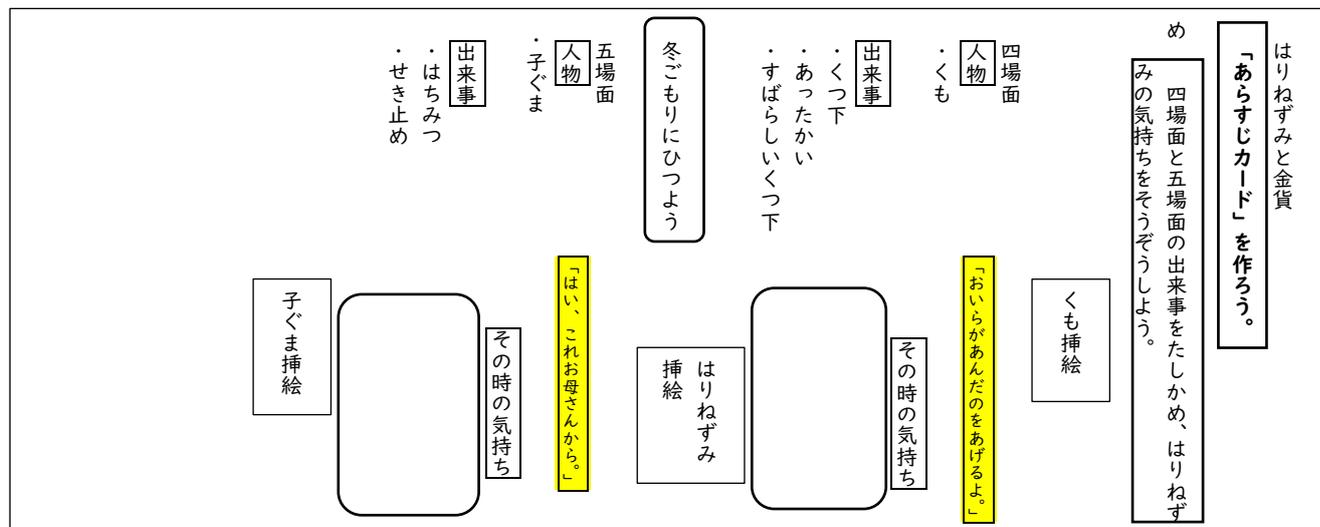
(5) 準備物

児童：教科書、ワークシート集、本時のワークシート、筆記用具

教師：教科書、デジタル教科書、黒板掲示物、掲示用挿絵

(6) 指導過程…別紙

(7) 板書計画



(6) 指導過程 (本時 5 / 10)

段階	<p>主な学習活動と活動形態  <b>主な発問</b>・予想される児童の反応</p>	<p>・指導上の留意点 ※個別の支援 【】 視点</p>	<p>〔〕 評価・方法</p>
<p>導入 7分</p>	<p>1 単元全体のめあてを確認し、第二場面と第三場面の振り返りをする。(全体)</p> <p>2 本時の課題を確認する。(全体)</p> <p><b>第四場面と第五場面の出来事をたしかめ、はりねずみの気持ちを想像しよう。</b></p> <p>・今日は何をやるのかな。</p>	<p>・児童が本時の学習の見通しを持つことができるように、拡大した学習計画表を提示する。【視点1】</p> <p>※あまり思い出せない児童には、前時までのワークシートを見てよいことを伝える。</p>	
<p>展開 33分</p>	<p>3 第四場面と第五場面を役割音読する。(全体)</p> <p>・私はいも、ぼくはいまだな。 ・はりねずみのつもりで読むぞ。</p> <p>4 場面ごとに出来事を確認しワークシートにまとめる。(個・グループ・全体)</p> <p><b>どことなくつ下なのか、はりねずみにとってはちみつはどんなものか、探して線を引きましょう。</b></p> <p>・ここじゃないかな。 ・みんなはどこに線を引いたかな。</p> <p>5 はりねずみにとって靴下やはちみつがどんなものなのか考える。(全体)</p> <p><b>どことなくつ下ですか。</b></p> <p>・あつらえたようにぴったり ・あったかくてやわらかい ・きぬのようにつやつや</p> <p><b>はりねずみにとってどうして「すばらしいつ下」なのでしょう。</b></p> <p>・くもがわざわざくれたから。 ・あったかくてやわらかいから。 ・きぬのようにつやつやだから。 ・冬ごもりに必要だから。</p> <p><b>はりねずみにとってはちみつはどんなものですか。</b></p> <p>はちみつ ・冬に出るせきはないと止まらない ・冬ごもりに必要だから。</p> <p>6 靴下やはちみつをもらったはりねずみの気持ちを考え、伝え合う。(個・グループ)</p>	<p>・「人物(誰が)」「出来事(何をくれたか)」は事前に探しておかせ、音読前に確認する。 ・「人物」「出来事」を確認しながら読むよう声掛けする。</p> <p>・ワークシートは2種類(罫線有・無し)を用意し、自分が書きやすいものを選択させる ・「人物」と「出来事」の短冊を提示し、改めて2つの観点を意識させる。 ・靴下とはちみつについて書かれている叙述を探し、サイドラインを引くように指示を出す。 ・友達と考えを確認するよう声掛けする。</p> <p><b>A児</b> ※落ち着いて考えるように声掛けし、文章に戻って一緒に教科書をめくり、ヒントになる言葉や挿絵を探していく。</p> <p>※なかなか見つけられない児童には、デジタル教科書を活用し、どこに書いてあるのか一緒に確認するよう声掛けする。</p> <p>・拡大した挿絵を板書で活用することで、児童が場面の様子を捉えるための一助とする。</p> <p>・「すばらしいつ下」を取り上げて考えさせることで、はりねずみにとって、もらった物はどれも冬ごもりに必要なものであること、動物たちが金貨を求めなかったことを捉えさせたい。</p> <p>・くもとくまの言葉を拡大して提示することで、児童がより課題を捉えることができるようにする。【視点2:視覚化】</p>	

	<p>「おいらがあんだのをあげるよ」 「はい、お母さんから」と言われた はりねずみは、どんなことを考えて いたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなにすてきなものをもらっていいのかな。</li> <li>・ありがとう、大切にしよう。</li> <li>・金貨はあげなくていいのかな。</li> </ul> <p>7 考えを共有する。(全体)</p> <p>どんな考えがあるか聞いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私と似ているな。</li> <li>・その考えは思いつかなかったな。</li> </ul> <p>8 第四場面と第五場面を役割音読する。(全体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くもかくまのどちらかを選んで書いていいことを確認する。どちらも取り組めそうな場合は、両方書いてよいことを伝える。</li> </ul> <p><b>A児</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ミニ挿絵を提示し、くもかくまか、どちらが考えやすいか確認する。「どうしてうれしいのかな」等、対話を通してはりねずみの気持ちを考えさせる。</li> </ul> <p>・話を聞く際に「同じ」「違う」などの聞く観点を示す。【視点2：共有化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの余白に友達の考えを書き足してもよいことを確認する。</li> <li>※書ききれなかった児童は、途中までもよいことを伝える。</li> </ul> <p><b>A児</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※自分の考えを、自信を持って話すことができるように励ます。友達の考えを聞いた後に、簡潔に内容を確認する。</li> <li>・再度ワークシートの余白に友達の考えを書き足してもよいことを確認する。</li> <li>・座席表を活用し、意図的指名をすることで、多様な考えを引き出す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はりねずみの気持ちをよく考えて音読するように指示を出す。</li> </ul>	<p>[思：第四場面・五場面の人物や出来事を正しく捉え、登場人物の気持ちを具体的に想像する。]</p> <p>発表・ワークシート</p>
<p>終末5分</p>	<p>9 本時を振り返り、単元全体のめあてを確認する。(個)</p> <p>学習計画表に今日の感想を書いて、振り返りをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は自分の考えたことを話せたから花丸にしよう。</li> <li>・「あらすじカード」に使えるな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が今後の学習の見通しを持つことができるように、拡大した学習計画表を提示する。【視点1】</li> <li>・本時の学習が「あらすじカード」の作成に繋がることを確認し、学習に対する達成感を味わわせたい。</li> </ul>	